

めの宣傳旅行を以てその諒解に努めたか、同方面に於ける實業家は未だ協調會に對する理解を缺き、従つて餘り氣乗りせぬ向きが多く、寄附金募集は極めて困難であつたか、當事者達の異常な努力により、結局二百萬圓の國庫補助金の他に申込者數九十二名、六百八十二萬六千八百圓に達する寄附金を一撥より募つたことと得た。(實應募額は附録参照)

之と並行して理事、評議員及び常議員の人選は着々進められ、九月初旬には早くも桑田熊藏及び松岡均平の兩法學博士の常務理事就任が決定した。而して評議員には有野者、貴衆兩院議員、學者、宗教家、新聞社員、官吏及び實業家等各方面に亘り二百十六名を推薦し、常議員は四十八名、理事は十五名とし、普く朝野の人士を網羅

するこゝとなつた。然るに、評議員中に勞働者を代表するべき者を加ふべしとの議論があつたが、友愛會長鈴木文治氏の拒否するところとなつて、遂に實現を見るに至らなかつた。十二月二十二日には協調會寄附行為に對して内務、農商務兩大臣の認可があり、同月二十五日には理事の互選により會長に公爵徳川家達、副會長に子爵清浦奎吾、男爵益澤榮一及び大岡有造氏の就任が決定され、更に常務理事には桑田熊藏氏、松岡均平氏及び谷口留五郎氏(元福岡縣知事)の三氏が會長より囑託された。斯くて協調會は創立を遂げた。茲に創立時に於ける役員及び寄附行為を再録すれば次の如くである。

會長

公爵 徳川 家達

副會長

子爵 清浦 奎吾